

「平成27年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成28年6月7日

仕事の内容	子ども支援員派遣事業				
担当部署・課長名	学校教育	課	特別支援教育	係	課長名 岩本 尚史

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 学校教育の充実

(総合計画書 31 ページ)

予算名	款 10	教育費	項 1	教育総務費	目 3	教育指導費	事業 5	児童生徒指導事業費	
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 支援を必要とする市立小学校10校の通常学級に在籍する児童・生徒					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) → 子ども支援員の派遣依頼をした児童・生徒数			
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 支援を必要とする市立小学校10校の通常学級に在籍する児童・生徒に対し、子ども支援員の派遣が適切であると判断した場合に派遣を開始する。					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) → 年間派遣回数/子ども支援員の派遣依頼をした児童・生徒数 (子ども一人当たりの子ども支援員の派遣回数)			
	③ そのために何をしましたか。 子ども支援員の派遣依頼のあった児童・生徒に対して子ども支援員を配置する。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) → ①子ども支援員実人数(平成27年度から統一名称) ※平成25~26年度に関しては、同一の活動内容だが、(a)メンタルサポートスタッフ・(b)特別支援教育支援員の名称で分かっている。 ②子ども支援員派遣延べ人数(派遣回数)			

2 指標の推移		単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度目標	平成29年度目標	
	対象指標	①の数値	件	27	24	24		
	成果指標	②の数値	人	27.0	27.9	26.7		
	目 標	②の目標値	人			-	-	-
		目標値設定の考え方 派遣依頼に対し、子ども支援員の派遣が適切である児童・生徒の個々の状況に応じて派遣員を決定するため、目標値の設定は行わない。						
活動指標	③の数値	①人 ②回	①(a)7人(b)4人 ②730回	①(a)4人(b)7人 ②670回	①13人 ②641回			

3 経費	事業費		円	3,426,262	2,684,910	2,564,000	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,233,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成26年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	3,426,262	2,684,910	2,564,000	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.1	0.1	0.1	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	834,000	829,800	823,300	
職員人件費(再任用)	円	0	0	0			
事業費+人件費		円	4,260,262	3,514,710	3,387,300		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 平成20年度からメンタルサポートスタッフ、平成21年度から特別支援教育支援員の配置を実施した。支援が必要な児童・生徒の情緒面の安定、学校生活や集団生活への適応を図る目的で配置を開始した。課題の改善や適応状態に応じて、支援を終了することとなる。	
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 通常学級に在籍している児童・生徒の中に支援を必要とする児童生徒の保護者の了解を得て配置するため、支援依頼件数が見込めない事から安定した雇用ができないため、ボランティアとして登録いただくこととした。平成27年度からメンタルサポートスタッフ及び特別支援教育支援員の両職を統合し、子ども支援員(有償ボランティア)とした。	
5 市民等の意見	この仕事に関して、平成27年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について なし	

仕 事 の 内 容	子ども支援員派遣事業			
担当部署・課長名	学校教育	課	特別支援教育	係 課長名 岩本 尚史

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換 ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
(2)平成28年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。				
7 課 題	この仕事を振り返り、課題を記入してください。			
	学校から提出される個別支援カードによって支援方法を確認している。 行動観察を行い、課題解決の気づきを学級担任との情報共有を図る上で、子供支援員が児童・生徒への関わり方の知識や技術の向上が必須となる。			
8 今 後 の 方 向 性	(1) 仕事の方向性(「7 課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)			
	学期に一度、連絡会を実施し、具体的事例の検討やモデルケースによる実施の支援方法を、巡回指導員が研修を実施し、技術向上に努めている。 学期に一度の研修や電話での相談を受け、技術向上に努めているが、児童・生徒に対する必要な支援は異なることから、個別に応じた柔軟な対応ができる技術を求められる。			
	(2) 上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的に記入してください。			
	巡回相談員と連携を密にし、対応方法や技術向上のためのアドバイスを常にもらえるようにしておく。			
(3) 改革・改善案による期待成果				
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成 果	成果を向上させる。		経 費	仕事の経費を増加させる。